



## Sato Tatsuya

サトウ タツヤ

総合心理学部 教授

1985年東京都立大学人文学部心理学卒業、1987年東京都立大学人文科学研究科心理学修士課程修了。2002年東北大学 博士(文学)。専門は社会心理学、文化心理学、心理学史。1994年福島大学行政社会学部助教授、2001年立命館大学文学部心理学科助教授、2006年立命館大学文学部人文学科心理学専攻教授、2016年より現職。2021年より総合心理学部長、学校法人立命館理事。立命館大学ものづくり質的研究センター長。日本心理学会常任理事、日本パーソナリティ学会常任理事等を務め、現在は日本質的心理学会理事長、TEAと質的探究学会学会誌編集委員長。『質的研究法マッピング(新曜社)』『TEMではじめる質的研究(誠信書房)』『法と心理学(有斐閣)』『臨床心理学史(東大出版会)』『Making of The Future: The Trajectory Equifinality Approach in Cultural Psychology (IAP)』など著書論文多数。

- 1) サトウタツヤ(2024)。対立から相補性へ、多様性から複線性へ—産学官連携に質的研究をどのように役立てるか質的心理学研究 (23),47-55.
- 2) Tsuchimoto, T., & Sato, T. (2024). Career decision-making as dynamic semiosis: Autoethnographic trajectory equifinality modeling. *Culture & Psychology*, 30(1), 48-69.
- 3) Kanzaki, M., Kato, H., & Sato, T. (2023). A Case Study of Transductive Resolution: Analyzing the Practice of Inclusive Education for a Girl with down's Syndrome at an Elementary School in Japan. *Integrative Psychological and Behavioral Science*, 57(4), 1256-1272.
- 4) Sato, T., & Fukuyama, M. (2022). TEA as a proposal for translation between an idiographic approach and nomothetic approach. *Ten years of idiographic science*, 10, 159-172.
- 5) サトウタツヤ, 安田 裕子, 木戸 彩恵, 高田 沙織, ヴァルシナー ヤーン, 複線径路・等至性モデル, 質的心理学研究, 2435-7065, 日本質的心理学会, 2006, 5, 1, 255-275, <https://cir.nii.ac.jp/crid/1390285300173110528>, [https://doi.org/10.24525/jaqp.5.1\\_255](https://doi.org/10.24525/jaqp.5.1_255)

## 北極星的展望をもて!

### ぶれない目標を道標に複線的な思考で新たな価値をデザインする

一つの目的地に向かう際、選べるルートは一通りとは限りません。自分とは異なる行動をとっているようにみえる相手も、別の途を進んでいるだけで同じゴールを目指す仲間かもしれません。このような複線的な考え方を表す方法論として複数径路等至性モデリング(TEM)を提案しました。複線的な考え方では異なる選択肢は等価であり、どちらが正解かと問うことに意味はありません。人類は宇宙開発により、地球を外から見る視点を手に入れました。このことが人類にどんなポテンシャルをもたらしたのか、そして、もたらしうるのか、より多くの人が月面などで生きようになったとき人同士の関係や争いがどう変わるのか、宇宙を体験した方々のTEMから理解したいと考えています。

### できなかったこと、選ばなかった途を含めた全体像を捉える

人はさまざまな目標に向け、自身の行動や態度を選択しています。目標に至る道筋は必ずしも一つではなく、途中で挫折や回り道を強いられたいとしても、道標となる目標があれば新たな途を考えることもできます。しかし、出来事や選択を一次的に並べた年表では選ばなかった選択肢の存在を表せないため、何の迷いもなく目標に直進したように見えてしまいます。そこで私たちが提案したのが、人生を二次元的に表す複数径路等至性モデリング(TEM)です。

複数径路とは目的に至る径路が複数あること、等至性とは複数の径路が同じ目標(等至点)に至ることを意味します。例えば、その目標を初めて抱いた時点を原点として、実現できたこととできなかったこと、選んだものと選ばなかったものの分岐点と、自分に影響を与えた外的な力を時系列に沿って描いていきます。TEMの利点はテーマを問わず幅広く利用できることです。国内のある自動車メーカーは商品開発に

あたって自社製品の購入に至るストーリーを顧客から聴き取ってTEM図を作成しています。あらかじめ用意した選択肢から選んでもらうアンケートとは異なり、インタビューでは製品の購入によって叶えたい夢や理想の生活などを顧客自身の言葉で語ってもらうことができます。メーカーはTEMを通して顧客一人一人の購入体験の意味や文脈の理解にとどまらず、商品やサービスが顧客の未来にもたらす新たな体験をデザインすることができます。

### 複線性のもたらす寛容さは争いのない宇宙開発の一助となるか

地球を外から見ることのできる視点は、人類の意識自体を変化させました。宇宙飛行士が宇宙に至るまでの選択や環境要因、宇宙での体験をモデリングすることで、宇宙での人の心理の変化や人間関係を理解するヒントを得たいと考えています。月はしばしば資源開発と結び付けて語られますが、人間の生存・生活の場になれば

宇宙飛行士の体験が一般化され、より多くの人のポテンシャルが引き出されることになるはずです。多様性が大切だとよく言われますが、そこには自分と異なる人がいるという前提があります。一方複線的な考え方では、一見自分と違う行動をとる人も実は自分と同じ目標に向かってると

気づければ互いにより寛大になれます。宇宙開発には異なる国や地域、文化的背景を持つ人たちが参加していますが、目標は一つです。地球上で繰り返されてきた領土や資源を巡る争いを繰り返すことなく生活を向上させる。そんなポテンシャルを宇宙が引き出してくれることを期待しています。

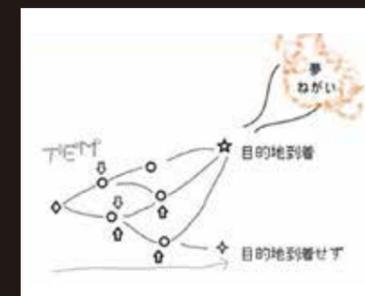


図1: 実現したこととしなかったことを時間軸と共に二次元的に表現した「複線径路等至性モデリング」(TEM)

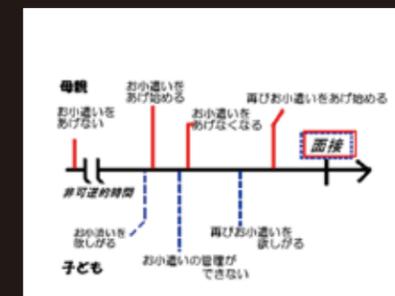


図2: 人生を1本の直線ではなく二次元で描く(左: 一次元で表す例、右: 二次元で表す複線回路)